

普及活動情勢報告（令和２年７月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

ロボットトラクターによる作業時間の削減を目指して！～スマート農業実証プロジェクト～



無人のロボトラを監視しながら、耕起作業を行うオペレーター

7月17日、営農支援センター四万十(株)と普及所は、大豆ほ場でロボットトラクター(以下『ロボトラ』)を使った耕起・整地作業の実証を開始しました。

今回は作業時間の削減を目指して、オペレーター1名が無人のロボトラと有人のトラクターの2台を同時に使って作業を行いました。中山間地の狭いほ場では同一ほ場内での同時作業が難しいため、隣接するほ場間での並行作業に取り組んでいます。

作業が早く進む一方、ロボトラのほ場移動は有人で行わなければならないため、オペレーターには2台のトラクターの間を行き来する手間が加わりました。

普及所は、実証プロジェクトを通じて、中山間地域に合ったスマート農機の活用方法や改善点を提案していきます。

ネギアザミウマ被害を抑えるために ～ＪＡ高知県四万十ニラ部会通常総会～



ネギアザミウマ防除対策の説明を聞く生産者

7月17日、ＪＡ高知県四万十ニラ部会の通常総会が開催され、43名の生産者が出席しました。

普及所は、近年、問題となっているネギアザミウマ被害対策について、現在の薬剤感受性の状況、ネギアザミウマの生態を考慮した効果的な薬剤散布方法や防虫ネット等の物理的防除方法を説明しました。生産者からは、「農薬だけの防除じゃ被害を抑えるのは限界、別の方法も考えていく必要がある。」といった声が上がっていました。

普及所は、今後もＪＡ等の関係機関と連携し、産地の維持・発展に向けて取り組んでいきます。

四万十にトゲの短いユズを導入しよう！ ～ＪＡ高知県四万十ユズ生産部会現地検討会～



昨年９月に１芽腹接ぎした育苗ほ場の状況

7月2日、ＪＡ高知県四万十ユズ生産部会の現地検討会が「高知県試選抜６号」と「高知県試選抜７号」の育苗及び定植ほ場で開催され、11名の生産者が参加しました。

普及所は、トゲの短い両品種についての特性や育苗・幼木管理等の情報を提供しました。

生産者からは、「もう少しトゲが短く少ないユズはないか」、「隔年結果の防止とカイガラムシ対策は？」など多くの質問が出され、栽培意欲の高まりを感じました。

普及所は、今後もＪＡと連携しながら、四万十ユズ生産部会の取り組みを支援していきます。

水稻穂肥施用の検討！

～主食用米品種「にこまる」・「ぴかまる」のブランド化～



幼穂長の確認

7月20日、J A高知県四万十エコ栽培米部会の7月現地検討会が行われ、生産者7名が参加しました。

普及所は、本年の気象とこれまでの生育状況にふれた後、収量・品質の高位平準化を目指した穂肥施用のタイミング、病虫害防除について情報提供を行いました。

生産者からは、幼穂長の確認の仕方や穂肥の施用量、ウンカの発生状況など様々な質問がありました。

普及所は、今後もJ Aと連携しながら、米のブランド化を推進していきます。